

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】 H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】 H25／ 明治大学

■プログラム名

日本 ASEAN リテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

――以下、シンガポールに特化した内容を主に記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

インドネシア大学（インドネシア）、バンドン工科大学（インドネシア）、ラオス国立大学（ラオス）、マラヤ大学（マレーシア）、マレーシア工科大学（マレーシア）、フィリピン大学ディリマン校（フィリピン）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、デ・ラ・サール大学（フィリピン）、シンガポール国立大学（シンガポール）、チュラロンコン大学（タイ）、シーナカリンウィロート大学（タイ）、キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）、カセサート大学（タイ）、泰日工業大学（タイ）、ハノイ貿易大学（ベトナム）、ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）、ホーチミン市国家大人文社会科学大学（ベトナム）

■主な活動内容（概要）

2011年に締結したシンガポール国立大学(NUS)環境設計学部と本学理工学部の学部間協定に基づいて、2011年8月に共同で夏期集中WSを実施した。その後も、教員の相互訪問、明治大学アセアンセンター設置に伴うコンソーシアム会議の実施などを通して交流を発展させ、2014年より学生交換覚書を締結して、9月より交換留学プログラムを開始する予定となっている。

■プログラムの現状・課題、成功事例

現状・課題

1. 大学院においては、設置基準で単位振替の上限が10単位を超えないものと規定されており、協定校等に交換留学した際に履修した単位がその一部しか振替できず、修了時期の延長を余儀なくされるケースがある。
2. 建築学分野では、NUSは英国の影響を受けた5年制(4+1システム)の教育プログラム、本学は後述の学士修士課程(4+2システム)の教育プログラムを持つ。修了時の学習教育到達目標を含めた本質的同等性を前提として学生交換を進めているが、異なる学修年限、学年歴などのため、学籍配置・単位互換等に関する課題に対応する必要性が生じている。

成功事例

1. 本学理工学研究科建築学専攻に2013年に国際プロフェッショナルコース(英語コース)を新設し、当該コースと既存の建築学科によりJABEE建築系学士修士課程の受審を予定し、UIA/UNESCO建築教育憲章に準拠する国際的通用性のあるプログラムとすることで、ASEAN圏の協定校との間でモビリティを確保し、英語での学生交流が推進されている。
2. 夏期の集中WSなどの短期プログラムを共同で開発し、効果的に活用することで、相互の学生訪問の機会を増進し、長期の留学などへ発展させる効果がある。